

海軍機關學校

刑法施行法

刑法

懲罰令

(附海軍檢察具申)

軍制學教科書

海軍治罪法執行規則

海軍治罪法

海軍刑法施行法

海軍刑法

帝國憲法

(法規)

生徒第三學年

大正八年十一月



大正八年十一月

海軍機關學校長
船橋善彌

本書ニ依リ軍制學ヲ修得スヘシ

本書ニ對シテ軍師學モ對シスヘシ
大正八年十一月

新軍師學對具
備
書
概

目次

帝國憲法	頁 I
海軍刑法	31
海軍刑法施行法	49
海軍治罪法	55
海軍治罪法執行規則	83
海軍檢察ニ關スル書式	98
海軍懲罰令	99
刑法	107
刑法施行法	151

海軍機關學校

軍制學教科書帝國憲法

生徒第三學年

大正八年三月

目 次

帝國憲法

新軍制

新軍制計畫

新軍制

新軍制計畫

新軍制計畫

新軍制

新軍制

新軍制

第一版 大正八年三月

發行年月

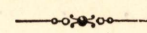
教官 海軍主理 杉山義太郎

帝國憲法目次

廿九

廿二

帝國憲法目次



大日本帝國憲法 (二二、二、一一)	頁
告文	I
憲法發布勅語	2
第一章 天皇	4
第二章 臣民權利義務	5
第三章 帝國議會	6
第四章 國務大臣及樞密顧問	8
第五章 司法	8
第六章 會計	9
第七章 補則	10
皇室典範 (二二、二、一一)	12
第一章 皇位繼承	12
第二章 踐祚即位	13
第三章 成年立后立太子	13
第四章 敬稱	13
第五章 攝政	14
第六章 太傅	15

第一編 大日本帝國憲法
 第一章 天皇
 第二章 臣民權利義務
 第三章 帝國議會
 第四章 國務大臣及樞密顧問
 第五章 司法
 第六章 會計
 第七章 補則

第七章 皇族	15
第八章 世傳御料	16
第九章 皇室經費	16
第十章 皇族訴訟及懲戒	16
第十一章 皇族會議	17
第十二章 補則	17
皇室典範增補 (四〇、二、一一)	19
皇族會議令 (四〇、皇室令一號)	22
登極令 (四二、皇室令一號)	24
攝政令 (四二、皇室令二號)	26
立儲令 (四二、皇室令三號)	27
皇室成年式令 (四二、皇室令四號)	28
第一章 天皇成年式	28
第二章 皇族成年式	28

大日本帝國憲法

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ
皇祖
皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコトナシ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク
皇祖
皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八州民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆
皇祖
皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ
皇祖
皇宗及我カ
皇考ノ威靈ニ倚籍スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ
皇祖
皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサムコトヲ誓フ庶幾クハ神靈此レヲ鑑ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス、

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力補翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ、

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ履行スル所ヲ知ラシム、

國家統治ノ大權ハ朕ガ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ、

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス、

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ、

將來若シ此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ、

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ、

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

大日本帝國憲法

第一章 天皇、

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス、
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス、
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス、
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ、
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ、
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス、
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス、
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス、
- 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ、
- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス、
- 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル、
- 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス、
- 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム、

- 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス、
- 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス、
- 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム、
- 第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス、
- 第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス、
- 第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル、
- 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ、

第二章 臣民權利義務、

- 第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル、
- 第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得、
- 第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス、
- 第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス、
- 第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス、
- 第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ、
- 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルルコトナシ、
- 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セララルコトナシ、
- 第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルルコトナシ、

- 第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルルコトナシ、
 公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル、
- 第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス、
- 第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス、
- 第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得、
- 第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ、
- 第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス、
- 第三章 帝國議會、
- 第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス、
- 第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス、
- 第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス、
- 第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス、
- 第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス、
- 第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得、
- 第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス、

- 第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス、
- 第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス、
- 第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ、
- 第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ、
 臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル、
- 第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ、
 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラレヘシ、
- 第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ、
- 第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス、
- 第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル、
- 第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得、
- 第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得、
- 第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得、
- 第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノノ外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得、

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ、

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルルコトナシ、

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得、

第四章 國務大臣及樞密顧問、

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス、凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス、

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス、

第五章 司法、

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ、

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム、

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之任ス、

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルルコトナシ、

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム、

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得、

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム、

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス、

第六章 會計、

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ、

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス、

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ、

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限リハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス、

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ、

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス、

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ、

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス、

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス、

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得、

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ、

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得、

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス、

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ、

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ、
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム、

第七章 補則、

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ、

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各、其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非ザレハ議事ヲ開クコトヲ得ス、

出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ザレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス、

第七十四條 皇室範典ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス、
皇室範典ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス、

第七十五條 憲法及皇室範典ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス、

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用非タルニ拘ラス、
此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス、
歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル、

皇室範典

第三章 成年立后太子、
第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス、
第十五條 儲君ハ皇子ヲ皇太子ト稱シ天皇皇少幼皇ト稱シ、
第十六條 皇子ハ其父天皇ト稱シ皇太子ト稱シ、
第十七條 皇太子ハ其父天皇ト稱シ、
第十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ト稱シ、
第十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第二十條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第二十一條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第二十二條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第二十三條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第二十四條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第二十五條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第二十六條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第二十七條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第二十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第二十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第三十條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第三十一條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第三十二條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第三十三條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第三十四條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第三十五條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第三十六條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第三十七條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第三十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第三十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第四十條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第四十一條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第四十二條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第四十三條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第四十四條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第四十五條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第四十六條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第四十七條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第四十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第四十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第五十條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第五十一條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第五十二條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第五十三條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第五十四條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第五十五條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第五十六條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第五十七條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第五十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第五十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第六十條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第六十一條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第六十二條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第六十三條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第六十四條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第六十五條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第六十六條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第六十七條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第六十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第六十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第七十條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第七十一條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第七十二條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第七十三條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第七十四條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第七十五條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第七十六條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第七十七條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第七十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第七十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第八十條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第八十一條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第八十二條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第八十三條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第八十四條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第八十五條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第八十六條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第八十七條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第八十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第八十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第九十條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第九十一條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第九十二條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第九十三條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第九十四條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第九十五條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第九十六條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第九十七條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第九十八條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、
第九十九條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其父天皇ト稱シ、
第一百條 皇太子皇太子妃皇太子正配ハ其母天皇ト稱シ、

皇室典範 (明治二十二年
三月十一日)

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徹ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム、

皇室典範

第一章 皇位繼承、

- 第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス、
- 第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ、
- 第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス、
- 第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル、
- 第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ、
- 第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ、
- 第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ、

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ以テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス、

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得、

第二章 踐祚即位、

- 第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク、
- 第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ、
- 第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ、

第三章 成年立后太子、

- 第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス、
- 第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス、
- 第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス、
- 第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス、

第四章 敬稱、

- 第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス、
- 第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス、

第五章 攝政、

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク、

天皇久シキニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク、

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス、

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ次ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス、

第一 親王及王、

第二 皇后、

第三 皇太后、

第四 太皇太后、

第五 内親王及女王、

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス、

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル、

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ、

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得、

第六章 太傅、

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム、

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス、

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス、

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス、

第七章 皇族、

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ、

第三十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス、

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ女王王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス、

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス、

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス、

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス、

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス、

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ、

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル、

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレ

タル華族ニ限ル、

- 第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル、
- 第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス、
- 第四十二條 皇族ハ養子ヲナスコトヲ得ス、
- 第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ、
- 第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ、

第八章 世傳御料、

- 第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス、
- 第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス、

第九章 皇室經費、

- 第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム、
- 第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル、

第十章 皇族訴訟及懲戒、

- 第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訟訴ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命ジ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス、

- 第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訟訴ニ當ラシメ自ラ訟延ニ出ルヲ要セス、
- 第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス、
- 第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ、
- 第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ、
- 第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス、

第十一章 皇族會議、

- 第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム、
- 第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命ジテ議長タラシム、

第十二章 補則、

- 第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル、
- 第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ、
- 第五十九條 親王内親王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス、
- 第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ

天祐ヲ享有シタル我カ日本帝國皇家ノ成典ハ祖宗ノ洪範ヲ紹述シテ敢テ違フコトアルナシ而シテ人文ノ發展ハ寰宇ノ進運ニ隨ヒ制度ノ燦備ハ條章ノ増廣ヲ必トス是ノ時ニ當リ朕ハ祖宗ノ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスル所以ノ良圖ヲ惟ヒ且憲章ニ用テ以テ皇族ノ分義ヲ昭ニセムコトヲ欲シ茲ニ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室典範増補ヲ裁定シ朕カ子孫及臣民ヲシテ之ニ率由シテ懲ルコトナキヲ期セシム、

皇室典範増補

第一條 王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ、

第二條 王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得、

第三條 前二條ニ依リ臣籍ニ入りタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家ニ入ル但シ他ノ皇族ニ嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス、

第四條 特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ、

前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル、

第五條 第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經ヘシ、

第六條 皇族ノ臣籍ニ入りタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス、

第七條 皇族ノ身位其ノ他ノ權義ニ關スル規程ハ此ノ典範ニ定メタルモノノ外別ニ之ヲ定ム、

皇族ト人民トニ涉ル事項ニシテ各々適用スヘキ法規ヲ異ニ

スルトキハ前項ノ規程ニ依ル、

第八條 法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ此ノ典範又ハ之ニ基ツキ發スル規則ニ別段ノ條規ナキトキニ限り之ヲ適用ス、

皇族會議令 (明治四十年二月二十八日
皇室令第一號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇族會議令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム、

皇族會議令

- 第一條 皇族會議ハ勅令ヲ以テ之ヲ召集ス、
- 第二條 皇族會議ハ皇室典範第十九條第二項ノ場合ニ於テハ攝政タルヘキ順位ニ在ル成年皇族男子之ヲ召集ス、
- 第三條 皇族會議ハ皇室典範第二十五條ノ場合ニ於テハ次ニ攝政タルヘキ順位ニ在ル成年皇族男子之ヲ召集ス、
- 第四條 前二條ノ場合ニ於テ皇族會議ノ召集ハ成年皇族男子三分ノ一以上又ハ樞密顧問ノ請求ニ依リ之ヲ行フ、
- 第五條 皇族會議ハ皇室典範第九條第六十二條ノ場合ニ於テハ皇族會議員三分ノ二以上其ノ他ノ場合ニ於テハ半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス、
- 第六條 皇族會議ハ皇室典範第十九條第二項第二十五條ノ場合ニ於テハ會議ヲ召集シタル皇族ヲ以テ議長トス但シ會議ヲ召集シタル皇族出席セサルトキハ出席者中上席者ヲ以テ議長トス、
- 第七條 皇室典範第五十五條ニ依リ皇族會議ニ參列スル者ハ議事ニ就キ意見ヲ陳述スルコトヲ得ルモ表決ノ數ニ加ハラズ、

第八條 皇族會議ノ議事ハ皇室典範第九條第六十二條ノ場合ニ於テハ出席者三分ノ二以上ノ多數ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ過半數ニ依リ之ヲ決ス、

第九條 皇族會議員ハ自己ノ利害ニ關係スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス、

前項利害關係ノ有無ニ付キ疑議アルトキハ皇族會議之ヲ決ス、

第十條 皇族會議ノ議決ハ天皇議事ヲ統理セラレサルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏スヘシ、

第十一條 皇室典範第十九條第二項第二十五條ノ場合ニ於テ皇族會議ノ議決アリタルトキハ皇族會議ノ議長ハ宮内大臣ヲシテ之ヲ樞密院議長ニ通報セシム、

樞密顧問ノ請求ニ依リ皇族會議ヲ召集シタル場合ニ於テ其ノ議決樞密顧問ノ議決ト一致シタルトキハ皇族會議ノ議長ハ宮内大臣ヲシテ之ヲ内閣總理大臣ニ通報セシム、

第十二條 皇族會議ノ議ニ付セラレタル議案ニ就テハ宮内大臣ヲシテ説明ノ任ニ當ラシム但シ必要ノ場合ニ於テハ特ニ説明委員ヲ勅選セラルルコトアルヘシ、

第十三條 皇族會議ニ關スル事務ハ宮内大臣之ヲ管掌ス、皇族會議ノ議事ハ宮内高等官ヲシテ筆記セシメ宮内大臣之ニ署名ス、

第十四條 皇族會議ノ記録ハ圖書寮ニ於テ之ヲ尙藏ス、

登極令 (明治四十二年二月十一日
皇室令第一號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ登極令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム、

登極令

- 第一條 天皇踐祚ノ時ハ即チ掌典長ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ且踐祚ノ旨ヲ皇靈殿神殿ニ奉告セシム、
- 第二條 天皇踐祚ノ後ハ直ニ元號ヲ改ム、
- 第三條 元號ハ樞密顧問ニ諮詢シタル後之ヲ勅定ス、
- 第四條 元號ハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス、
- 第五條 即位ノ禮及大嘗祭ハ秋冬ノ間ニ於テ之ヲ行フ、
- 第六條 大嘗祭ハ即位ノ禮ヲ訖リタル後續テ之ヲ行フ、
- 第七條 即位ノ禮及大嘗祭ヲ行フトキハ其ノ事務ヲ掌理セシムル爲宮中ニ大禮使ヲ置ク、
- 第八條 大禮使ノ官制ハ別ニ之ヲ定ム、
- 第九條 即位ノ禮及大嘗祭ヲ行フ期日ハ宮内大臣國務各大臣ノ連署ヲ以テ之ヲ公告ス、
- 第十條 即位ノ禮大嘗祭ヲ行フ期日定マリタルトキハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅使ヲシテ神宮神武天皇山陵竝前帝四代ノ山陵ヲ奉幣セシム、
- 第十一條 大嘗祭ノ齋田ハ京都以東以南ヲ悠紀ノ地方トシ京都以

西以北ヲ主基ノ地方トシ其ノ地方ハ之ヲ勅定ス、

- 第十二條 悠紀主基ノ地方ヲ勅定シタルトキハ宮内大臣ハ地方長官ヲシテ齋田ヲ定メ其ノ所有者ニ對シ新穀ヲ供納スルノ手續ヲ爲サシム、
- 第十三條 稻實成熟ノ期至リタルトキハ勅使ヲ發遣シ齋田ニ就キ拔穂ノ式ヲ行ハシム、
- 第十四條 即位ノ禮ヲ行フ期日ニ先タチ天皇神器ヲ奉シ皇后ト共ニ京都ノ皇宮ニ移御ス、
- 第十五條 即位ノ禮ヲ行フ當日勅使ヲシテ之ヲ皇靈殿神殿ニ奉告セシム、
- 第十六條 大嘗祭ヲ行フ當日勅使ヲシテ神宮皇靈殿神殿竝官國幣社ニ奉幣セシム、
- 第十七條 大嘗祭ヲ行フ前一日鎮魂ノ式ヲ行フ、
- 第十八條 即位ノ禮及大嘗祭ハ附式ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ、
- 第十九條 即位ノ禮及大嘗祭訖リタルトキハ大饗ヲ賜フ、
- 第二十條 即位ノ禮及大嘗祭訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山陵竝前帝四代ノ山陵ニ謁ス、
- 第二十一條 即位ノ禮及大嘗祭訖リテ東京ノ宮城ニ還幸シタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇靈殿神殿ニ謁ス、
- 第二十二條 諒闇中ハ即位ノ禮及大嘗祭ヲ行ハス、(附式略ス)

攝政令 (明治四十二年二月十一日
皇室令第二號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ攝政令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム、

攝政令

- 第一條 攝政就任スル時ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所ニ祭典ヲ行ヒ且就任ノ旨ヲ皇靈殿神殿ニ奉告ス、
- 第二條 攝政ヲ置キタルトキ又ハ攝政ノ更迭アリタルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス、
- 第三條 攝政ヲ置ク間御名ヲ要スル公文ハ攝政御名ヲ書シ且其ノ名ヲ署スルノ外天皇大政ヲ親ラスルトキト形式ヲ異ニスルコトナシ、
- 第四條 攝政ハ其ノ任ニ在ル間刑事ノ訴追ヲ受クルコトナシ、
- 第五條 攝政止ミテ天皇大政ヲ親ラスルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス、(附式略ス)

立儲令 (明治四十二年二月十一日
皇室令第三號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ立儲令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム、

立儲令

- 第一條 皇太子ヲ立ツルノ禮ハ勅旨ニ由リ之ヲ行フ、
- 第二條 立太子ノ禮ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス、
- 第三條 立太子ノ禮ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅使ヲシテ神宮神武天皇山陵並先帝ノ山陵ニ奉幣セシム、
- 第四條 立太子ノ禮ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ、
- 第五條 立太子ノ詔書ハ其ノ禮ヲ行フ當日之ヲ公布ス、
- 第六條 立太子ノ禮訖リタルトキハ皇太子皇太子妃ト共ニ賢所皇靈殿神殿ニ謁ス、
- 第七條 立太子ノ禮訖リタルトキハ皇太子皇太子妃ト共ニ天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス、
- 第八條 立太子ノ禮訖リタルトキハ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ、
- 第九條 前各條ノ規定ハ皇太孫ヲ立ツルノ禮ニ之ヲ準用ス、(附式略ス)

皇室成年式令 (明治四十二年二月十一日)
皇室令第四號

朕皇室成年式令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム、

皇室成年式令

第一章 天皇成年式、

第一條 天皇成年ニ達シタルトキハ其ノ當日成年式ヲ行フ但シ

事故アルトキハ其ノ期日ヲ延フルコトアルヘシ、

第二條 天皇成年式ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス、

第三條 天皇成年式ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅

使ヲシテ神宮神武天皇山陵竝先帝先后ノ山陵ニ奉幣セシム、

第四條 天皇ノ成年式ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ
之ヲ行フ、

第五條 天皇成年式ヲ訖リタルトキハ皇靈殿神殿ニ謁ス、

第六條 天皇成年式ヲ訖リタルトキハ太皇太后皇太后ニ謁ス、

第七條 天皇成年式ヲ訖リタルトキハ正殿ニ御シ朝賀ヲ受ク、

第八條 天皇成年式ヲ訖リタルトキハ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ、

第二章 皇族成年式、

第九條 皇太子皇太孫親王王成年ニ達シタルトキハ其ノ當日附
式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ成年式ヲ行フ但シ事故ア
ルトキハ勅許ヲ經テ其ノ期日ヲ延フルコトヲ得、

第十條 皇太子皇太孫成年式ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ
奉告ス、

第十一條 皇太子皇太孫親王王成年式ヲ訖リタルトキハ天皇皇
后太皇太后ニ朝見ス、

第十二條 皇太子皇太孫ノ成年式ニハ第二條第五條及第八條ノ
規定ヲ準用シ親王王ノ成年式ニハ第五條ノ規定ヲ準用ス、

第十三條 親王王成年式ヲ訖リタルトキハ其ノ當日宮内大臣之
ヲ公告ス、(附式略ス)

國家

主權 (統治權)

地 命 大 平 御 室 皇

人民

= 顯赫顯靈皇祖資_レ之口當_レ行_レ大平御室天皇于天皇 新十條
* 昔奉

皇皇天ハチイハス_レ諸_レ大平御王王縣縣太皇于太皇 新十條

* 皇尊 = 皇太皇皇太皇

ノ新八條又新正親新二條ハ_レ大平御_レ皇太皇于太皇 新二十條

* 皇孫_レ家_レ皇_レ新正親_レ大平御_レ王王縣_レ田_レ華_レ宝_レ殿

之皇大内宮日當_レ其ハチイハス_レ諸_レ大平御王王縣 新三十條

皇皇成年式 (* 湖左州) * 昔公_レ

第一章 天皇成年式

第一條 天皇成年ニ達シタルトキハ其ノ當日成年式ヲ行フ但シ
事故アリトキハ其ノ期日ヲ延ブコトヲ得

第二條 天皇成年式ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三條 天皇成年式ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ
使_レフ_レ神宮神武天皇山陵並先帝先后ノ山陵ニ奉幣セシム

第四條 天皇_レ成年式_レ附式_レ定ム_レ所_レ依_レ賢所大前_レ於_レ
之ヲ行フ

第五條 天皇成年式ヲ行ハル_レトキハ皇靈殿神殿ニ臨ス

第六條 天皇成年式ヲ行ハル_レトキハ太皇太后皇太后ニ臨ス

第七條 天皇成年式ヲ行ハル_レトキハ正殿ニ例_レ朝賀ヲ受ク

第八條 天皇成年式ヲ行ハル_レトキハ宮中ニ於_レテ要褻ヲ賜フ

第二章 皇族成年式

第九條 皇太子皇太孫親王王成年ニ達シタルトキハ其ノ當日附
式_レ定ム_レ所_レ依_レ賢所大前_レ於_レ成年式ヲ行フ但シ事故
アリトキハ其ノ期日ヲ延ブコトヲ得

海軍刑法

第二版 大正八年十一月
第一版 大正三年五月

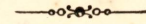
發行年月

教官 海軍主理 杉山義太郎

海軍歴史

海軍刑法 (法律第四十八號)

目次



	頁
第一編 總則	31
第二編 罪	34
第一章 叛亂ノ罪	34
第二章 擅權ノ罪	36
第三章 辱職ノ罪	36
第四章 抗命ノ罪	39
第五章 暴行脅迫ノ罪	40
第六章 侮辱ノ罪	43
第七章 逃亡ノ罪	44
第八章 軍用物損壞ノ罪	45
第九章 掠奪ノ罪	46
第十章 俘虜ニ關スル罪	46
第十一章 違令ノ罪	47



新訂海軍刑法

海軍大臣 男爵齋藤 實
內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

明治四十一年四月九日

御名 御璽

之ヲ公布セシム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍刑法ヲ裁可シ茲ニ

海軍刑法 (附八十四條)

目次

1	第一章 總則
2	第二章 海軍官制
3	第三章 海軍官之職務
4	第四章 海軍官之懲罰
5	第五章 海軍官之懲罰
6	第六章 海軍官之懲罰
7	第七章 海軍官之懲罰
8	第八章 海軍官之懲罰
9	第九章 海軍官之懲罰
10	第十章 海軍官之懲罰
11	第十一章 海軍官之懲罰
12	第十二章 海軍官之懲罰
13	第十三章 海軍官之懲罰
14	第十四章 海軍官之懲罰
15	第十五章 海軍官之懲罰
16	第十六章 海軍官之懲罰
17	第十七章 海軍官之懲罰
18	第十八章 海軍官之懲罰
19	第十九章 海軍官之懲罰
20	第二十章 海軍官之懲罰
21	第二十一章 海軍官之懲罰
22	第二十二章 海軍官之懲罰
23	第二十三章 海軍官之懲罰
24	第二十四章 海軍官之懲罰
25	第二十五章 海軍官之懲罰
26	第二十六章 海軍官之懲罰
27	第二十七章 海軍官之懲罰
28	第二十八章 海軍官之懲罰
29	第二十九章 海軍官之懲罰
30	第三十章 海軍官之懲罰
31	第三十一章 海軍官之懲罰
32	第三十二章 海軍官之懲罰
33	第三十三章 海軍官之懲罰
34	第三十四章 海軍官之懲罰
35	第三十五章 海軍官之懲罰
36	第三十六章 海軍官之懲罰
37	第三十七章 海軍官之懲罰
38	第三十八章 海軍官之懲罰
39	第三十九章 海軍官之懲罰
40	第四十章 海軍官之懲罰
41	第四十一章 海軍官之懲罰
42	第四十二章 海軍官之懲罰
43	第四十三章 海軍官之懲罰
44	第四十四章 海軍官之懲罰
45	第四十五章 海軍官之懲罰
46	第四十六章 海軍官之懲罰
47	第四十七章 海軍官之懲罰
48	第四十八章 海軍官之懲罰
49	第四十九章 海軍官之懲罰
50	第五十章 海軍官之懲罰
51	第五十一章 海軍官之懲罰
52	第五十二章 海軍官之懲罰
53	第五十三章 海軍官之懲罰
54	第五十四章 海軍官之懲罰
55	第五十五章 海軍官之懲罰
56	第五十六章 海軍官之懲罰
57	第五十七章 海軍官之懲罰
58	第五十八章 海軍官之懲罰
59	第五十九章 海軍官之懲罰
60	第六十章 海軍官之懲罰
61	第六十一章 海軍官之懲罰
62	第六十二章 海軍官之懲罰
63	第六十三章 海軍官之懲罰
64	第六十四章 海軍官之懲罰
65	第六十五章 海軍官之懲罰
66	第六十六章 海軍官之懲罰
67	第六十七章 海軍官之懲罰
68	第六十八章 海軍官之懲罰
69	第六十九章 海軍官之懲罰
70	第七十章 海軍官之懲罰
71	第七十一章 海軍官之懲罰
72	第七十二章 海軍官之懲罰
73	第七十三章 海軍官之懲罰
74	第七十四章 海軍官之懲罰
75	第七十五章 海軍官之懲罰
76	第七十六章 海軍官之懲罰
77	第七十七章 海軍官之懲罰
78	第七十八章 海軍官之懲罰
79	第七十九章 海軍官之懲罰
80	第八十章 海軍官之懲罰
81	第八十一章 海軍官之懲罰
82	第八十二章 海軍官之懲罰
83	第八十三章 海軍官之懲罰
84	第八十四章 海軍官之懲罰
85	第八十五章 海軍官之懲罰
86	第八十六章 海軍官之懲罰
87	第八十七章 海軍官之懲罰
88	第八十八章 海軍官之懲罰
89	第八十九章 海軍官之懲罰
90	第九十章 海軍官之懲罰
91	第九十一章 海軍官之懲罰
92	第九十二章 海軍官之懲罰
93	第九十三章 海軍官之懲罰
94	第九十四章 海軍官之懲罰
95	第九十五章 海軍官之懲罰
96	第九十六章 海軍官之懲罰
97	第九十七章 海軍官之懲罰
98	第九十八章 海軍官之懲罰
99	第九十九章 海軍官之懲罰
100	第一百章 海軍官之懲罰

刑法ハ犯罪ト刑罰トヲ定メタル法令ヲ言フ
 犯罪トハ刑罰法令ニ列挙シル有責違法ノ行爲ヲ言フ
 治外法權

海軍刑法

第一編 總則

第一條 本法ハ海軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第二條 本法ハ海軍軍人ニ非スト雖次ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一 第六十二條乃至第六十五條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪

二 第七十二條ノ罪

三 第七十八條乃至第八十五條ノ罪

四 第八十六條乃至第八十九條ノ罪

五 第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條、第九十二條ノ未遂罪

六 第九十五條、第九十六條、第九十七條第二項、第九十八條及第百條ノ罪

第三條 本法ハ前二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス

第四條 帝國軍ノ占領地ニ於テ海軍軍人刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ帝國內ニ於テ犯シタルモノト看做ス

海軍軍人ニ非スト雖帝國臣民、從軍外國人及俘虜ノ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條 帝國外ニ在ル海軍官衙團隊ニ屬シ若クハ從フ者又ハ之

ニ俘虜タル者其ノ官衙團隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條 海軍ト共同作戰ニ從フ陸軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル海軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條 海軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル海軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 海軍軍人ト稱スルハ海軍ノ高等武官、候補生、准士官及下士卒ニシテ次ニ記載シタル者ヲ謂フ

- 一 現役ニ在ル者但シ召集中ニ非サル歸休兵ヲ除ク
- 二 豫備役、後備役ニ在リ召集中ノ者
- 三 前二號ニ記載シタル者ノ外海軍制服著用中ノ者

第九條 次ニ記載シタル者ハ海軍軍人ニ準ス

- 一 海軍所屬ノ學生、生徒
- 二 海軍軍屬
- 三 海軍ノ勤務ニ服スル陸軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 海軍軍屬ト稱スルハ海軍文官、同待遇者及宣誓シテ海軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ

第十一條 陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法ニ於テ陸軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

第十二條 上官ト稱スルハ命令關係アル海軍軍人間ニ於テ命令

權ヲ有スル者ヲ謂フ

命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ卒ハ總テ同等トス

第十三條 指揮官ト稱スルハ艦船、軍隊ヲ指揮スル海軍軍人ヲ謂フ

陸海軍用船又ハ拿捕船舶ニ乗組ミ之ヲ監督スル海軍軍人ハ指揮官ニ準ス

第十四條 守兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守所ニ在ル海軍軍人ヲ謂フ

第十五條 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎮定ニ從事スル艦船、軍隊ニハ戰時ノ規定ヲ適用ス

第十六條 海軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ海軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

第十七條 多衆共同ノ暴行ヲ鎮壓スル爲又ハ敵前若クハ艦船危急ノ際ニ於テ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十八條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第十九條 本法及陸軍刑法ニ於テ俱ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ海軍軍人ニ準スル者ト雖陸軍軍人ニ對シテハ陸軍刑法ヲ適用ス

第二編 罪

第一章 叛亂ノ罪、

第二十條 黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群集ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十一條 反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ヒ兵器、彈藥其ノ他

軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十二條 次ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

- 一 軍隊又ハ艦船、兵器彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト
- 二 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト
- 三 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト
- 四 敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト
- 五 敵國ニ降ラシムル爲指揮官ヲ強要スルコト

六 敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト

第二十三條 敵國ヲ利スル爲次ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト

二 水陸ノ通路、橋梁、燈臺、浮標ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ艦船、軍隊ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト

三 指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率テ守所若クハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離ル、コト

四 艦隊、隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ艦船、隊兵ノ連絡集合ヲ妨害スルコト

五 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト

六 命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳へ又ハ虛偽ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト

七 造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

第二十四條 前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與へ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二十五條 反亂者又ハ内亂者ヲ利スル爲前三條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若クハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十六條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條 第二十條乃至第二十五條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十八條 第二十條又ハ第二十一條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第二十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二章 擅權ノ罪、

第三十條 指揮官外國ニ對シ故ナク戰闘ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十一條 指揮官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰闘ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十二條 指揮官權外ノ事ニ於テ己ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ艦船、軍隊ヲ進退シタルトキ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十三條 命令ヲ待タズ故ナク戰闘ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十四條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章 辱職ノ罪、

第三十五條 指揮官其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降り又ハ其ノ艦船若クハ守所ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十六條 指揮官敵前ニ於テ其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ艦船、軍隊ヲ率井逃避シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條 指揮官其ノ艦船危急ノ時ニ當リ故ナク救護ノ方法ヲ盡サス又ハ衆ニ先チテ其ノ艦船ヲ退去シタルトキハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條 指揮官敵ノ船舶ヲ拿捕スヘキ場合ニ於テ故ナク之ヲ拿捕セサルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第三十九條 指揮官敵前ニ於テ帝國又ハ帝國ト共同作戰ニ從フ外國ノ艦船ヲ救護スヘキ場合ニ於テ故ナク之ヲ救護セサルトキハ一年以上ノ有期禁錮ニ處ス

第四十條 指揮官護衛ノ命ヲ受ケタル艦船ヲ故ナク委棄シタルトキハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 戰時ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十一條 指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率井故ナク守所若クハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ揚所ヲ離レタルトキハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 戰時ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十二條 指揮官又ハ乗員故ナク其ノ艦船ヲ覆沒又ハ破壊シタルトキハ死刑ニ處シ之ヲ損壞シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四十三條 指揮官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條 指揮官衝突、坐礁其ノ他ノ危難ニ罹リタル艦船アルニ當リ救護ノ請求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十五條 部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎮定ノ方法ヲ盡サ、ル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十六條 艦船當直將校、守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者故ナク其ノ勤務ノ場所ヲ離レタルトキハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期ノ禁錮ニ處ス
- 二 戰時又ハ擱岸、坐礁其ノ他艦船危險ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
- 三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十七條 艦船當直將校睡眠又ハ酩酊シテ其ノ職務ヲ怠リタルトキハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
- 二 戰時又ハ航海中ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十八條 守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十九條 戰時又ハ事變ニ際シ偵察ノ勤務ニ服スル者虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳

達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若クハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク之ヲ傳達セサルトキ亦前項ニ同シ

第五十條 軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡サ、ルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十一條 戰時又ハ事變ニ際シ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第五十二條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第五十三條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第五十四條 第三十五條乃至第三十七條、第四十條乃至第四十二條、第四十六條、第四十九條及第五十一條乃至第五十三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四章 抗命ノ罪、

第五十五條 上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若クハ十年以上ノ禁錮ニ處ス

二 戦時又ハ艦船救護ノ爲緊要ノ方略ヲ爲ス際ナルトキハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十六條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 戦時又ハ艦船救護ノ爲緊要ノ方略ヲ爲ス際ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十七條 暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

第五章 暴行脅迫ノ罪、

第五十八條 上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五十九條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキ首魁ハ無期若クハ十年以上ノ懲役又ハ禁

錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十條 上官ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用非テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑、無期若クハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期若クハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十一條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十二條 守兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十三條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十四條 守兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十五條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若クハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條 上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ六年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條 上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若クハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條 職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條 第五十八條乃至第六十八條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六章 侮辱ノ罪、

第七十一條 上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

文書、圖畫若クハ偶像ヲ公示シ又ハ演說ヲ爲シ其ノ他公然ノ方法ヲ以テ上官ヲ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二條 守兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七章 逃亡ノ罪、

第七十三條 故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ死刑、無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十四條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十五條 艦船ノ乗員故ナク其ノ艦船發航ノ期ニ後レタルトキハ其ノ經過日數ヲ問ハス前二條ノ規定ヲ適用ス

第七十六條 敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處ス

第七十七條 第七十三條第一號、第七十四條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八章 軍用物損壞ノ罪、

第七十八條 海軍ノ艦船、工場、戰鬪ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若クハ橋梁又ハ海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第七十九條 露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 戰時ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十條 火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十一條 海軍ノ艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十二條 第七十八條ニ記載シタル物又ハ海軍戰鬪ノ用ニ供スル鐵道、電線若クハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條 第七十八條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十五條 本章ノ規定ハ海軍ト共同作戰ニ從フ外國陸海軍ノ

軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九章 掠奪ノ罪、

第八十六條 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十七條 戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十八條 前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷ケタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章 俘虜ニ關スル罪、

第九十條 俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條 俘虜ヲ逃走セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條 逃走シタル俘虜ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ

五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條 第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一章 違令ノ罪、

第九十五條 守兵ヲ欺キテ守所ヲ通過シ又ハ守兵ノ制止ニ背キタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

二 戰時ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十六條 歸休兵及豫備役、後備役ニ在ル者故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十七條 兵役ヲ免ル、目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

歸休兵及豫備役、後備役ニ在ル者召集ヲ免ル、目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第九十八條 艦船ノ危急ニ際シ指揮官ノ指揮ヲ待タス其ノ艦船ヲ退去シタル者ハ次ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ三年以上ノ有期禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル虛僞ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者